

平成30年度

(第54期)

事業計画書

収支予算書

自 平成30年 1月 1日

至 平成30年12月31日

## 目 次

1.平成30年度事業計画 . . . P.3 - 1 1

2.平成30年度収支予算等 . . . P.12 - 1 7

## はじめに

### ニューホール竣工の年を迎えて

国立京都国際会館は、日本で最初の国立の国際会議場として、昭和 41 年 5 月に、ここ洛北宝ヶ池の地に誕生してから、平成 29 年 5 月をもって 51 年が経ちました。これまでに開催された会議は、国際会議が約 2,000 件、国内会議が約 15,000 件と、計 17,000 件を超え、また、約 1,160 万人もの会議参加者の方々が来館されました。

開業以来、今日まで、多くの関係者の方々のご指導をいただきながら財団運営を進めてきましたが、その間、会議の誘致及び運営を取り巻く環境も大きく変化してきました。会議の規模やテーマの大型化、多様化が進む中、世界的な会議施設の増加、あるいは、とりわけアジアの国々を中心とした国を挙げての会議誘致により、他国も含めた会議誘致における競争は激化の一途をたどっています。

そうした中、平成 30 年 9 月、待望のニューホールが遂に竣工となります。収容人数 2,500 名規模の多目的ホールとして、会議や展示、パーティー等様々なイベントにも対応できるだけでなく、既存施設と併せた利用により、今まで以上に多様かつ大規模な催事の開催が可能となる環境が整うこととなります。

以前より、このニューホール稼働を見据えて大型会議の誘致活動を行ってききましたが、平成 29 年におけるその成果の一例として、平成 32 年に開催される「第 14 回国連犯罪防止刑事司法会議」の誘致成功が挙げられます。当館で開催される国連主催の大規模国際会議としては、平成 9 年開催の「地球温暖化防止京都会議 (COP3)」以来、23 年ぶりの開催となります。この会議を成功させることは、同年開催予定の東京五輪を間近に控えた中で、日本の安心と安全を世界中にアピールする絶好の機会となります。

平成30年は、上記の成功事例にとどまることなく、より多くの会議の誘致及び運営に一層奮闘し、これからも国際相互理解の促進と、学術、科学技術等の振興に寄与し、伝統と文化の溢れる京都が日本のMICEを牽引していけるよう、当館及び当財団がその中心的役割を担うべく邁進していきます。

# 平成30年度事業計画

## 1. 平成30年度事業計画

### 平成30年度業務運営について

#### (1) 基本方針について

- ①「緊急営業対策本部」における取組みを通じた安定的な収益の確保
- ・平成29年度、30年度の収支改善を図るため、平成29年7月に「緊急営業対策本部」を立ち上げ（本部長に事務局長、全職員で構成）。
  - ・平成30年度は本部長である事務局長のもと、総務・企画部、施設部、営業推進部の全部署が各部署の専門性に基づき、収支改善施策を集中的に実施。
  - ・とりわけ、大型学術会議等の間に生じた非稼働日を埋めるべく、ニューホールの開業を契機に、誘致から開催までが短期間である企業・団体主催の会議や飲食を伴う催事の開催に注力。  
(中長期的展望に立った営業活動への取組みについては、後述の「(4) 誘致の方策の更なる改善及び工夫」に記載)
- ②公益法人会計の特性と主旨に沿った安定的な収支構造の確立
- ・国立の会議場に相応しい状態を維持するため、施設の修繕や改修に多額の経費が必要。
  - ・そのため、中長期にわたる取組みとなる大型国際会議の誘致等と並行し、前述の「緊急営業対策本部」における取組み等を通じて、短期的な収益確保の施策を実施。
  - ・公益事業と収益事業の比率を一定内に収めつつ、適正に収益を確保し、特定費用準備資金等を計画的に活用して、修繕や改修を実施。
- ③ニューホールの開業に向けた取組み
- ・竣工記念式典、内覧会の実施 平成30年9月中旬(予定)
  - ・こけら落としの開催 平成30年9月下旬(予定)
  - ・主催者やPCO、エージェント等を招いた営業商談会の実施  
平成30年10月上旬(予定)
- (詳細について、後述の「(2) ニューホールの開業に向けて」に記載)

④中長期保全計画に基づく計画的な改修・更新

- ・中長期保全計画に基づき、建築・電気・機械設備の長寿命化に向けて改修が必要な箇所や内容を具体化した計画を作成。
- ・内容の具体化を基に国への予算要望資料を充実化し、同時に当財団予算に基づく改修にも活用。

⑤重要会議に備えたセキュリティーの強化

- ・設備面のセキュリティーの強化計画を、予算を含め、平成30年の下期までに取りまとめ。
- ・万全の安全管理体制の確保が必須となる第14回国連犯罪防止刑事司法会議に向けたものとするだけでなく、将来の会議誘致においてセキュリティー体制が当館の強みとなるような水準を目標に設定。

⑥計画的な人材育成のための取組み

- ・階層別研修を導入し、管理職登用前の中堅職員には、業務遂行能力だけでなくリーダーシップ、マネジメント力等のスキル向上を促すなどの研修を企画。
- ・時代に応じて要請される法令順守事項等についても、職員が正しい知識を習得できる研修を実施。

## (2) ニューホールの開業に向けて

### ①建築状況の経過

- ・収容人数 2,500 名規模の多目的に使用可能なホールとして建設中で、建築部分の工事進捗率は平成 29 年 11 月末時点で 7 割近くまで到達。
- ・平成 30 年より、建物工事の進捗に合わせ、建物内部の電気及び機械設備の工事を開始し、順次内装工事の段階へと移行する予定。
- ・完成は、予定通り平成 30 年 6 月末で、竣工検査を経て当財団への引き渡しとなる見込み。

### ②京都市との連携による「京都らしい設え」

- ・来場者を迎え入れる「ロビー空間」や賓客をもてなす「特別室」等を対象に、京都市と連携して「京都らしい設え」を整備。
- ・「京都らしい設え」の内装工事を、国の本体工事の進捗に合わせ、平成 30 年 1 月頃から開始する予定。
- ・調度・備品については、京都市が、順次プロポーザル方式等により受託事業者を選定し、平成 30 年 8 月末納品に向けた取組みを進行中。

### ③将来に向けた更なる施設拡充

- ・まずは、収容人数 2,500 名規模のホール稼働を足掛かりとして、5,000 名規模のホールへの更なる施設拡充について、引き続き、国に対し、オール京都体制でのあらゆる機会を捉えた働き掛けを継続。

### ④名称の決定

- ・既に関係者間で定着している「ニューホール」に正式決定。
- ・5,000 名規模のホールへの拡張が実現した際に、名称変更を検討。

(3) 開催が決定した会議の準備及び誘致中会議の決定に向けての取組み

平成30年度会議開催件数は、国際会議25件、国内会議150件、合計175件の見込み。

① 平成30年度に開催される主要な催事について

催事名：第18回国際薬理・臨床薬理学会

主催：国際薬理学連合（IUPHAR）

参加人数：6,000名（海外20カ国より700名、国内5,300名）

会期：2018年7月1日～6日

備考：国際薬理学・臨床薬理学会議は国際薬理学連合（IUPHAR）の会議として、1961年から開催されている薬理学分野で最も由緒あり、権威ある国際会議。

通常、4年ごとに開催され、日本での開催は第8回以来で、37年振りの2回目。

催事名：第17回国際婦人科腫瘍会議

主催：国際婦人科腫瘍学会

参加人数：3,000名（海外80カ国より500名、国内2,500名）

会期：2018年9月14日～16日

備考：第60回日本婦人科腫瘍学会学術講演会との合同開催となり、合同プログラムが開かれる予定。

②主要な国際会議

催 事 名	期 間	参加人数
公益社団法人日本青年会議所 2018 年度京 都会議	1 月 18 日～1 月 21 日	14,000 名
「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式	2 月 10 日～2 月 10 日	1,000 名
第 16 回アジア泌尿器科学会	4 月 17 日～4 月 21 日	500 名
第 106 回日本泌尿器科学会総会	4 月 19 日～4 月 22 日	5,000 名
第 19 回リチウム電池国際会議	6 月 17 日～6 月 22 日	1,200 名
第 18 回国際薬理・臨床薬理学会	7 月 1 日～7 月 6 日	6,000 名
第 27 回国際液晶学会	7 月 22 日～7 月 27 日	600 名
第 5 回国際組織工学・再生医療学世界会 議	9 月 4 日～9 月 7 日	2,300 名
第 19 回国際アルコール医学生物学会学術 総会	9 月 9 日～9 月 13 日	1,000 名
第 17 回国際婦人科腫瘍会議	9 月 14 日～9 月 16 日	3,000 名
科学技術と人類の未来に関する国際フォー ラム第 15 回年次会合	10 月 7 日～10 月 9 日	900 名
日本放射線腫瘍学会第 31 回学術大会	10 月 11 日～10 月 13 日	2,800 名
地球観測に関する政府間会合 (GEO) 第 15 回本会合	10 月 30 日～11 月 2 日	600 名
アジアパシフィックマイクロ波会議	11 月 6 日～11 月 9 日	950 名
第 34 回京都賞授賞式・記念講演会・記念 ワークショップ	11 月 10 日～11 月 12 日	3,000 名
50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology - SIOP18	11 月 14 日～11 月 19 日	2,000 名
第 3 回国際シンポジウム「米と米糠の科 学」	11 月 28 日～11 月 30 日	600 名



③主要な国内会議

催 事 名	期 間	参加人数
第 21 回日本病態栄養学会年次学術集会	1 月 12 日～1 月 14 日	4,000 名
第 41 回日本眼科手術学会学術総会	1 月 26 日～1 月 28 日	3,000 名
近畿薬剤師学術大会及び日本病院薬剤師会近畿学術大会	2 月 3 日～2 月 4 日	5,000 名
第 56 回関西財界セミナー	2 月 8 日～2 月 9 日	600 名
国際ロータリー第 2650 地区 2018-19 年度地区研修・協議会	4 月 15 日～4 月 15 日	1,200 名
第 11 回宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦 京都大会	4 月 15 日～4 月 15 日	1,300 名
第 26 回日本乳癌学会学術総会	5 月 16 日～5 月 18 日	6,200 名
第 2 回全国在宅医療医歯薬連合会全国大会	5 月 26 日～5 月 27 日	1,500 名
第 60 回日本老年医学会学術集会	6 月 14 日～6 月 17 日	1,800 名
きょうされん第 42 回全国大会 in きょうと	9 月 21 日～9 月 22 日	4,000 名
第 91 回日本生化学会大会	9 月 24 日～9 月 26 日	4,000 名
全国道路利用者会議全国大会 第 68 回全国大会	10 月 18 日～10 月 18 日	1,000 名
日本精神分析学会第 64 回大会	11 月 23 日～11 月 25 日	1,400 名
京都精華大学・木野会 50 周年記念展	11 月 30 日～12 月 2 日	2,000 名
第 57 回日本網膜硝子体学会総会	12 月 7 日～12 月 9 日	1,600 名

注) 平成 29 年 12 月 15 日現在 公開可の催事のみを表示

④ 平成 30 年度以降に開催される主要な会議の準備について

催事名：第 25 回世界博物館会議（ICOM2019）

参加人数：3,000 名

会期：2019 年 9 月

備考：京都府、京都市、経済界、宗教界、文化、芸術、観光関連団体で構成される「ICOM 京都大会京都推進委員会」を定期的に行う。平成 30 年 10 月 1 日（月）に、当館にてプレミーティングが開催され、国際委員会委員長を始めとする ICOM 本部からも出席予定。

催事名：第 14 回国連犯罪防止刑事司法会議

参加人数：4,000 名

会期：2020 年 4 月

備考：京都府、京都市、京都文化交流コンベンションビューロー、当財団の 4 者で会議開催準備委員会（仮称）の立上げを予定。5 月にウィーンで開催される国連犯罪防止刑事司法委員会において、日本政府が出店を予定する展示ブースに、京都として PR 活動の協力を行う予定。

⑤ 平成 30 年度中に開催決定が見込まれる主要な大型国際会議の誘致

催事名：国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）

主催者：環境省

参加人数：500 名

会期：2019 年 5 月

備考：2018 年に国内候補地選定後、国連による視察を経て決定される予定。

催事名：第 9 回緑内障国際会議（WGC2021）

主催者：World Glaucoma Association

参加人数：3,000 名

会期：2021年3月

競合相手：横浜、ブエノスアイレス

備考：企画書の提出を終え、2018年2月のWGA国際本部、MCI アムステルダム(事務局)による視察を経て、決定の最終選考に進む予定。  
JNTO、京都文化交流コンベンションビューローと連携して対応中。

催事名：IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS2022)

主催者：IEEE Robotics & Automation Society

参加人数：3,000名

会期：2022年10月

競合相手：杭州

備考：2018年夏に企画書を提出後、9月にIROS運営委員会にて協議され、10月の年次大会にて決定予定。京都文化交流コンベンションビューローと連携して対応中。

本会議はインテリジェントロボットに関する国際会議で、インテリジェントロボットとは、マイクロコンピューターを搭載し、視覚・触覚などの機能によって、自己判断ができるロボットのこと。

⑥ 平成30年度中に開催決定が見込まれる主要な大型国内会議の誘致

催事名：第77回日本臨床眼科学会総会

参加人数：8,000名

会期：2021年10月

備考：2018年4月開催の「第122回日本眼科学会総会」にて、学会長及び開催地が決定する見込み。

#### (4) 誘致の方策の更なる改善及び工夫

##### ① 中期的展望に立った営業活動への取組み

- ・受注タイミングが異なる各マーケットに適した誘致活動を実施
- ・海外見本市における商談方法の改善とノウハウ醸成。
- ・海外の PCO とのネットワークの構築による知名度向上。

##### ② ニューホール開業による施設拡大を機に取組む重点営業分野

- ・過去、施設規模の不足で受注を逃していた大型会議需要。
- ・2020年東京五輪前後の訪日招待者等の増加に伴い需要が高まる企業インセンティブ。

##### ③ イメージ向上を目指した営業ツールの開発と活用

- ・プロモーションビデオ、パンフレット類を一新し、当館の魅力を効果的に訴求し、従来の枠を超えた新たな顧客層の開拓に活用。

##### ④ 新たなケータリングサービスの導入 (ニューホール及びイベントホール対象)

- ・顧客の希望により、市内の提携ホテルからサービスが受けられるケータリング制度を導入し、顧客満足度を高める一方、提携ホテルとは催事誘致で連携を強化。

##### ⑤ 既存顧客への更なる営業活動

- ・開催実績のある学術会議事務局・近隣大学を中心に、4、5年先を見込んだ大型学会や派生中小規模催事の情報収集の実施。

#### (5) 社会貢献への取組みについて

- ・自主企画の開催。
- ・大学生のインターンシップの受け入れ。
- ・地元小学生への教育支援の実施。

# 平成30年度収支予算書

## 1. 平成30年度収支予算等

### 平成30年度収支予算等について

#### (1) 収支

- ・使用料収入14億5,000万円に、その他収入9,080万円を加え、合計15億4,080万円の見込み。(対前年度比1億5,050万円の増収)
- ・支出も、15億4,080万円の見込み。(対前年度比1億1,892万円の増額)
- ・平成30年度予算案は、収支均衡の見込み。

#### (2) 正味財産(純資産)

- ・公益事業で得た利益を計画的に支出するため、平成28年度に積み立てた特定費用準備資金のうち、平成29年度執行残余見込額5,000万円(茶室の改修等)及び平成30年度執行予定の1億3,000万円(駐車場舗装整備他)を費用化(事業執行)する予定。
- ・結果として、合計1億8,000万円の正味財産の減少見込み。

#### (3) 積み立て

- ・平成29年度の特定期間準備資金として約2億円を積み立て。
- ・平成29年度の決算状況を見極めつつ、ニューホール竣工に伴う関連事業費や会館建物、設備の修繕費等に対して執行し、収支相償の達成を予定。

(単位：千円)

	H28年度積立分		H29年度積立分	
	H29年度	H30年度	H30年度	H31年度以降
執行予定額	129,700	130,000	約200,000	
執行見込額	79,700	130,000	精査中	精査中
残余見込額	50,000	-	-	-

※ H30年度正味財産減少分 180,000千円 + H29年度積立分 200,000千円のうちH30年度執行額

## 1. 平成30年度 予定貸借対照表

(単位：千円)

科 目	30年度予算
<b>I. 資産の部</b>	
1. 流 動 資 産	
現金	3,755
預金	569,000
未収金	120,000
販売物品	100
仮払消費税	0
流動資産合計	692,855
2. 固 定 資 産	
基本財産	
指定正味財産	375,950
一般正味財産	224,050
計	600,000
有形固定資産（通常運用）	
建物・工作物	254,500
建物附属設備	306,755
工具器具備品	459,896
立木	1,000
茶室建物	74,243
茶室備品	3,018
リース資産	15,255
(計)	1,114,667
減価償却累計額	△654,837
計	459,830
有形固定資産（第一次運用）	
工具器具備品	53,421
減価償却累計額	△ 47,397
計	6,024
有形固定資産（第二次運用）	
工具器具備品	19,785
減価償却累計額	△ 19,784
計	1
有形固定資産（第三次運用）	
工具器具備品	53,031
減価償却累計額	△ 53,030
計	1
有形固定資産（第四次運用）	
工具器具備品	88,949
減価償却累計額	△ 88,831
計	118
有形固定資産（随時運用）	
工具器具備品	459,717
減価償却累計額	△454,189
計	5,528
無形固定資産	
会議ソフトウェア	19,601
通信加入権	725
計	20,326
基本財産計	1,091,828
特定資産	
退職給付資金	204,200
特別修繕資金	19,575
計	223,775
特定資産計	223,775
固定資産合計	1,315,603
資産合計	2,008,458

(単位：千円)

科 目	30年度予算
<b>Ⅱ. 負債の部</b>	
1. 流 動 負 債	
未払費用	95,000
前受金	80,000
一時預り金	12,000
職員預り金	10,000
短期リース負債	4,068
未払法人税等	8,000
未払消費税等	16,000
流動負債合計	225,068
2. 固 定 負 債	
保証預り金	60,600
長期リース負債	11,187
退職給付引当金	204,200
特別修繕引当金	19,575
固定負債合計	295,562
負債合計	520,630
<b>Ⅲ. 正味財産の部</b>	
1. 指 定 正 味 財 産	
基本財産	375,950
指定正味財産合計	375,950
2. 一 般 正 味 財 産	
基本財産	224,050
事業運営財産	491,828
繰越金	396,000
一般正味財産合計	1,111,878
正味財産合計	1,487,828
負債及び正味財産合計	2,008,458

平成30年12月31日予定

2. 平成30年度 予定正味財産増減計算書内訳表

平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

(単位：千円)

科 目	公益事業				収益事業					法人会計	内部取引 消去	合 計
	公益1	公益2	共通	小計	収益1	収益2	収益3	共通	小計			
<b>I 一般正味財産増減の部</b>												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
① 使用料	1,160,000	0	0	1,160,000	290,000	44,000	9,700	0	343,700	0	0	1,503,700
会場使用料	1,160,000			1,160,000	290,000				290,000			1,450,000
飲食施設使用料				0		41,000			41,000			41,000
駐車場使用料				0			9,700		9,700			9,700
売店使用料				0		3,000			3,000			3,000
② 地下鉄連絡通路料				0			7,800		7,800			7,800
③ 自主企画事業料		17,300		17,300					0			17,300
④ 基本財産等運用益			9,000	9,000					0			9,000
⑤ その他収入				0		3,000			3,000			3,000
経常収益計	1,160,000	17,300	9,000	1,186,300	290,000	47,000	17,500	0	354,500	0	0	1,540,800
(2) 経常費用												
① 事業費	1,295,420	82,372	0	1,377,792	291,354	7,668	29,344	0	328,366	0	0	1,706,158
人件費	319,642	4,162		323,804	79,910	4,162	4,162		88,234			412,038
委託費	180,314	2,313		182,627	45,078	641	15,141		60,860			243,487
運営費	544,495	1,432		545,927	136,124	1,300	541		137,965			683,892
維持管理費	250,969	51,565		302,534	30,242	1,565	900		32,707			335,241
地下鉄連絡通路維持費				0			8,600		8,600			8,600
自主企画事業費		22,900		22,900					0			22,900
② 管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14,642	0	14,642
人件費				0					0	4,162		4,162
法人運営費				0					0	9,221		9,221
維持管理費				0					0	1,259		1,259
経常費用計	1,295,420	82,372	0	1,377,792	291,354	7,668	29,344	0	328,366	14,642	0	1,720,800
当期経常増減額	△ 135,420	△ 65,072	9,000	△ 191,492	△ 1,354	39,332	△ 11,844	0	26,134	△ 14,642	0	△ 180,000
2. 経常外収益												
(1) 経常外収益												
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用												
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	5,746	5,746	0	0	0	△ 20,388	△ 20,388	14,642	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 135,420	△ 65,072	14,746	△ 185,746	△ 1,354	39,332	△ 11,844	△ 20,388	5,746	0	0	△ 180,000
法人税等								0	0			
当期一般正味財産増減額	△ 135,420	△ 65,072	14,746	△ 185,746	△ 1,354	39,332	△ 11,844	△ 20,388	5,746	0	0	△ 180,000
一般正味財産期首残高			0	1,291,878						0		1,291,878
一般正味財産期末残高	△ 135,420	△ 65,072	14,746	1,106,132	△ 1,354	39,332	△ 11,844	△ 20,388	5,746	0	0	1,111,878
<b>II 指定正味財産増減の部</b>												
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高			375,950	375,950								375,950
指定正味財産期末残高			375,950	375,950								375,950
<b>III 正味財産期末残高</b>	△ 135,420	△ 65,072	390,696	1,482,082	△ 1,354	39,332	△ 11,844	△ 20,388	5,746	0	0	1,487,828
	政府等による国際 会議、学術会議等 に関する事業	国際交流等に 関する事業			公益目的事業に該 当しない催事に関 する事業	飲食・宿泊・売 店等に関する事 業	有料駐車場等に 関する事業					



## 平成30年度収支予算

平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

(単位：千円)

収 入 の 部			
科 目	当年度(H30)	前年度(H29)	増減
使用料	( 1,503,700 )	( 1,351,000 )	152,700
使用料収入	1,450,000	1,300,000	150,000
飲食宿泊施設使用料収入	41,000	43,000	▲ 2,000
駐車場収入	9,700	5,000	4,700
その他収入	3,000	3,000	0
利息収入	( 9,000 )	( 7,300 )	1,700
基本財産利子	8,900	7,200	1,700
受取利息	100	100	0
その他収入	( 3,000 )	( 3,000 )	0
地下鉄連絡通路収入	( 7,800 )	( 10,000 )	▲ 2,200
自主企画事業収入	( 17,300 )	( 19,000 )	▲ 1,700
合 計	1,540,800	1,390,300	150,500

平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

(単位：千円)

支 出 の 部			
科 目	当年度(H30)	前年度(H29)	増減
人件費	( 416,200 )	( 412,800 )	3,400
職員給料	249,200	245,000	4,200
期末手当	80,400	78,600	1,800
退職金	22,600	24,300	▲ 1,700
通勤手当	9,000	8,700	300
法定福利費	53,100	53,800	▲ 700
福利厚生費	1,900	2,400	▲ 500
委託費	( 245,800 )	( 227,800 )	18,000
会場設営費	39,000	38,000	1,000
駐車場費	14,500	11,800	2,700
館内案内費	25,000	24,000	1,000
警備費	36,800	33,000	3,800
清掃費	50,700	45,000	5,700
電気機械保守費	64,100	63,000	1,100
派遣費・報酬等	15,700	13,000	2,700
運営費	( 690,800 )	( 592,180 )	98,620
電力使用料	54,100	54,600	▲ 500
ガス使用料	46,700	70,000	▲ 23,300
水道使用料	11,700	3,900	7,800
広報宣伝費	13,200	8,700	4,500
通信運搬費	6,200	6,400	▲ 200
運営用消耗品費	11,300	11,000	300
会場運営諸費	547,600	437,580	110,020
管理費	( 156,500 )	( 159,400 )	▲ 2,900
修繕保守費	30,000	52,600	▲ 22,600
庭園保守費	30,600	27,800	2,800
交際接待費	2,500	1,500	1,000
旅費	8,700	6,000	2,700
事務印刷費	15,100	13,000	2,100
保険料	3,000	2,500	500
会議行事費	600	1,000	▲ 400
諸会費分担金	4,500	5,000	▲ 500
諸費	1,500	1,000	500
減価償却費	60,000	49,000	11,000
地下鉄連絡通路費	( 8,600 )	( 7,500 )	1,100
自主企画事業費	( 22,900 )	( 22,200 )	700
<b>合 計</b>	<b>1,540,800</b>	<b>1,421,880</b>	<b>118,920</b>
【当期収支差額】	【 0 】	【 ▲ 31,580 】	31,580